

Green Map Harmony

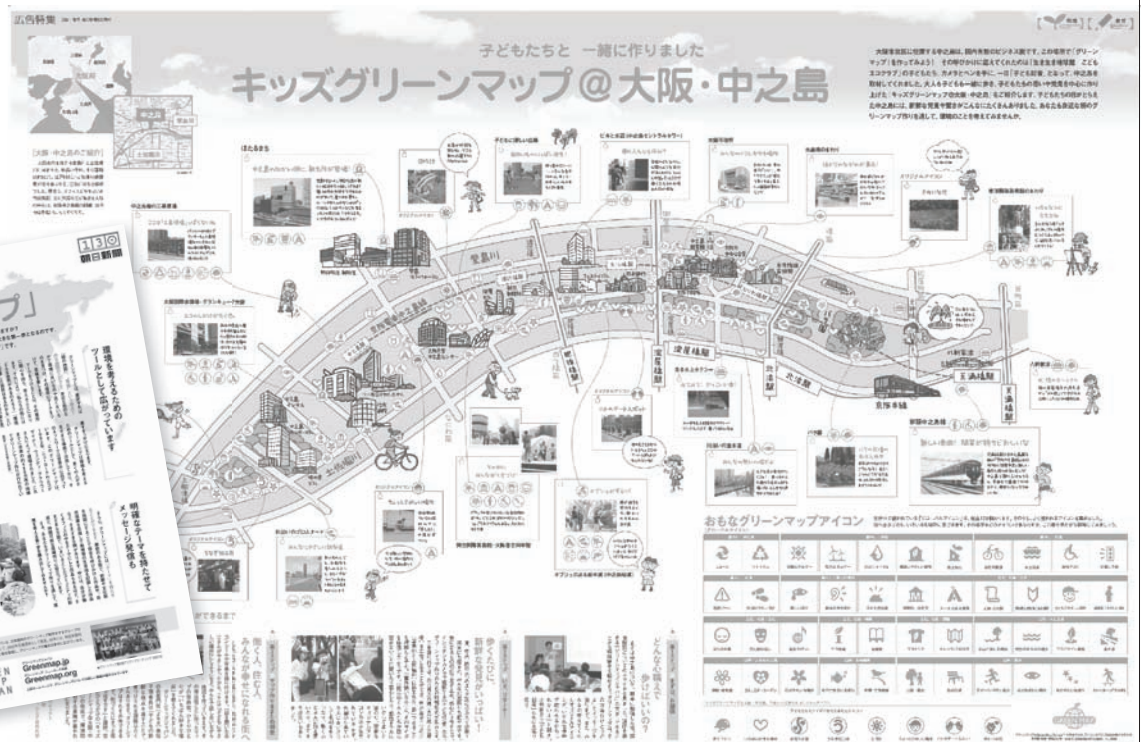
vol.4

特定非営利活動法人
グリーンマップジャパン
Annual Report
from April 2008 to March 2009

GREEN
MAP
JAPAN



うなぎの加工所に子供達は大はしゃぎ！オリジナルアイコンを作りました。



新竹市長自らエコパークを案内

大々的に紹介された 中之島グリーンマップ

7月20日（日）の朝日新聞関西版朝刊に、グリーンマップの紹介記事1Pと「キッズグリーンマップ@大阪・中之島」が見開き2Pで大々的に掲載されました。このプロジェクトは、夏休みの宿題は勿論のこと、海外などでは定例化している地域の大人が世話する子どものためのサマーキャンプのプログラムや夏の特別授業、また学校での年間環境学習などにグリーンマップを役立ててもらおうと、グリーンマップジャパンと朝日新聞広告局が協働で取り組んだものです。1P目の「世界に広がるエコの視点—グリーンマップ」では、グリーンマップとは何かを紹介し、特徴や国内外で制作されたマップや、Wendyのメッセージが掲載されています。

また、ケーススタディとして実際、大阪中心部の中之島を舞台に子供達とグリーンマップを制作。この「キッズグリーンマップ@大阪・中之島」を作るにあたっては、3月から準備を進め、4月のワークショップでは「イキイキ地球館 どもエコクラブ」の皆さんに記者になってもらい、大人と一緒に歩いて詳細な地図を作りました。大阪の中心ビジネス街にも、子供達やグリーンマップの目で見れば多くの発見があり、まちづくりや環境にもヒントをたくさん見つけることができました。どうぞ子供達の労作を見てあげてください。これを機に関西地域でグリーンマップづくりが広がるといいですね。

準備を進め、4月のワークショップでは「イキイキ地球館 どもエコクラブ」の皆さんに記者になってもらい、大人と一緒に歩いて詳細な地図を作りました。大阪の中心ビジネス街にも、子供達やグリーンマップの目で見れば多くの発見があり、まちづくりや環境にもヒントをたくさん見つけることができました。どうぞ子供達の労作を見てあげてください。これを機に関西地域でグリーンマップづくりが広がるといいですね。



content
Green Map Harmony vol.4
サラゴサ博覧会の市民パビリオンに参加
世界のマップから インドネシアのマップ作り
2008年度完成したグリーンマップ
事務局便り

- 1 中之島キッズグリーンマップ
- 2-3 マップメーカー登場！ 里山の知恵を現代の生活に橋渡し
- 4-5 世界のマップから インドネシアのマップ作り
- 6-7 2008年度完成したグリーンマップマップ
- 8

サラゴサ博覧会 — 『グリーンマップあいち』



昨年（2008年）夏にスペインのサラゴサで「水と持続可能な開発」をテーマにした国際博覧会が開催されたのをご存じですか。そのサラゴサ博覧会に「愛・地球博」での市民参加を継承しようと現地の市民組織の尽力で「El faro（エルファロ）」という市民パビリオンができました。そのエルファロに7月14日（月）から1週間、日本のNGOユニットが出展。愛・地球博の「地球市民村」にグリーンマップをテーマに参加した中部リサイクル運動市民の会も13団体で構成されるユニットの1団体として参加しました。



～スペインの人々にグリーンマップを紹介～

サラゴサ博覧会の市民パビリオンに参加

グリーンマップ・デーを企画

今回の出展は、13団体が丸一となって1週間のプログラムを実施するという形でしたが、そのうちの1日を「グリーンマップ・デー」として企画することができました。エルファロの中は、すり鉢状になった円形ステージと小さなワークショップルーム、展示スペースで構成されていましたが、その日はグリーンマップが主役のプログラム。

前半は円形ステージで、キューバの活動映像やアイコンクイズ、万博がきっかけに広がった愛知のグリーンマップのこと、私たちが現地に着いてからサラゴサ市内を歩いてみつけたサイトの写真にアイコンをつけて紹介するなど、グリーンマップの魅力をアピールしました。

後半は場所を移動し、グリーンマップづくりのワークショップ。サラゴサ市は、中央にエブロ川という大きな川が流れています。そのエブロ川周辺の地図と丸いカードを用意し、来場した人たちに、お気に入りのエコスポットを書いてアイコンシールとともに地図に貼り付けてもらいました。予想以上に、たくさんの人たちが興味をもって参加してくれたのはびっくりでした。ひとつ残念だったことは、ワークショップで使用するために日

本から送った長さ4メートルほどに拡大したエブロ川のベースマップが、本番に間に合わず、なんと翌日に届いてしまったことです。せっかくの大型マップを使うことはできませんでしたが、エルファロを運営する市民団体の「ECODES（エコデス）」に、「ぜひサラゴサでもグリーンマップをつくってください」とプレゼントすると、とても喜んでくれ、逆にグ



リーンマップのPRになりました。海外で、しかもスペイン語圏でグリーンマップの企画実施したのは、初めての経験でしたが、共通アイコンを使うグリーンマップの魅力はグローバルだということを改めて実感しました。

「市民参加」を次の上海万博にもつなげよう

最終日には国際シンポジウムが市民パビリオンで開かれました。ECODES代表のビクトール氏と「愛・地球博」から万博に市民サイドから携わってきた、グリーンマップあいちのリーダーでもある萩原氏もパネリストとして登壇。日本とスペインのNGO交流を続け、愛・地球博からサラゴサ博につながった「市民参加」を次の上海万博にもつなげていこうと共同宣言が出されました。

実際には市民参加の概念のない中国では難しいかもしれませんが、万博を機会にアジアのグリーンマップ交流会がなんらかの形でできたらいいですね。その可能性も探ってみたいと思っています。

グリーンマップあいちディレクター
中川恵子（NPO法人中部リサイクル運動市民の会）

里山の知恵を 人・場・時間軸で「つなぐ」

「もともと食い意地がはっていて、美味しいものが食べたかったので、百姓をしようと思っていた」と語る代表の関宣昭さんは、51才で企画会社を早期退職し、もうひとつの働き方を模索していた。お百姓さんに教えを請い、パーマカルチャーの講座にも東京へ1年通った。パーマカルチャーを日本語にしたらと考えると「里山」だと気がついた。ちょうど小倉南区の緑地公園管理の公募募集に誘われ、自分の夢を実現するいい機会だと思った。単に里山の草刈りをするだけでなく、里山の恵みを楽しみ、育てる知恵を市民に伝え、学び、活動する「食

マップメーカー登場 — 福岡県北九州市『里山を考える会』

べられる公園」というアイデアを出した。本物の野菜をみんなで作って楽しむ「食べられる公園 - 長野緑地」は2003年、会の活動拠点となった。主な活動は、里山を利用して、持続可能な社会作りのための「つなぐ」作業の企画立案と運営だ。認知症の高齢者と市民・NPO・行政の交流を図る「森フォーラム」、「森先案内人」養成講座、市民の環境教育能力を高める「森の楽校」、「九州子どもホタルレンジャーサミット」、企業のCSR関連部署が助成がしやすい仕組み作り「30世紀の森づくり」など多岐にわたる。又、活動から派生した人脈やアイデアを元に、社会貢献に通じる人材発掘と人材育成を目的とした「生涯現役夢追塾」「夢追いサミット」。その他にも持

続可能な生活提案と生活者教育を目的とした「北九州エコライフプラザ」の運営や指定管理者として「山田緑地公園」「北九州市環境ミュージアム」などの委託事業も増えてきた。

『森の楽校』風景



福岡県北九州市は、かつて高度成長を支えた日本有数の工業都市として栄えた。当時、空を覆う「七色の煙」の都市は、母親達の公害運動をきっかけに、公害克服→環境再生→環境先進都市へと方向転換してきた。北九州市八幡区の沿岸工場跡地にある環境団体の基地「東田エコクラブ」に「里山を考える会」を訪ねた。

福岡県北九州市 NPO『里山を考える会』 www.satoyama.cn

里山の知恵を現代生活に橋渡し

代表の関宣昭さん



NPO の経営

公園の指定管理業者に認定されると5年間、事務所・人件費と契約額が支給される。その間最低限の資金があるので、自分たちのやりたいことに集中できたと関さんは言う。その後活動が次第に行政から認められ信頼関係が出来てきたので、会は次々に事業を行政に提案していった。「常に提案をしないとダメです。でない行政にお仕事を頂いているという態度になって、下請けになってしまう。提案をしていくと対等でつきあえますし、今では行政の担当者もいい企画だったら、どこかから予算を工面してきてくれるようになってきました。北九州は一時は全国第4の都市で、人材を集めていました

ので、行政にも企画の革新性などがわかる優秀な人も多いのです。反面、行政主導なので、市民に理解してもらおう方が難しい所もありますが…。又、市は公害克服からアジアの環境先進都市という側面から、売っていかようとしていますから、NPOのいいアイデアは財産なのです。」と関さんは説明してくれる。現在の里山の会他8団体の事務所のある「東田エコクラブ」も「エコ長屋」というコンセプトが受け入れられ、企業からの寄付で建設された。



メンバー左から
杉本惟さん、メームケン幸雄さん、蒲原聖さん

グリーンマップの利用

グリーンマップは地域の文化や知恵の掘り起こしや発信ツールとして面白いと感じ、使い出したという。里山の自然観察でも、こういう生き物や植物があることを記すだけでなく、オーラルヒストリーを聞き取り、地域の知を伝授する道具にもなる。作り方や作る地図をどうしようかと考えているうちに、「この地図で社会をどうやって変えてやろうかという」知の創造にまで使えるところが魅力だそうだ。様々な企画を始終考えていないといけないが、この辺のブレイクワークがうまく伝授されていけば、NPOは強くなると関さんは言う。現在では関さんに続くスタッフが確実に育っている。



自然観察にもグリーンマップを利用



『夢追いサミット』の成果を本にまとめ、出版

リーダーシップと若い息吹で

2001年11月、マルコ・クスマウィジャヤという一人のインドネシア人都市計画家が、グリーンマップの事を知りたいとニューヨークのオフィスに現れました。それからインドネシアに帰った彼は、僅か2ヶ月後にインドネシア最初のグリーンマップを作ったのです。

90%がイスラム教徒の国、インドネシア群島は人種的にも地形的にも多様性に満ちています。2002年以降10都市で28のグリーンマップ・プロジェクトが遂行され、現在までに16のユニークなマップが発行されています。



Jakarta

ジャカルタグリーンマップ

インドネシア最初の「ジャカルタグリーンマップ」はケマン地区のもので、雑誌「AIKON」の中央見開き付録として発行されました。この雑誌は当時、ジャーナリスト、デザイナー、アクティビストなどで運営される文化や環境問題を扱う国内唯一の雑誌で、読者層は主に中産階級です。小学校に通うことすら出来ない多くの人があるこの国で、中産階級の人々は教育程度が最も高く、現状を変えていくためには欠かせない存在です。又、ケマン地区は小さな地区ですが、地域の人や政策決定者にも十分に知られていない文化・環境資源があり、ある意味で全ジャカルタを代表できると考えたのです。巨大都市として成長し、公害や自然破壊が深刻な問題となっているジャカルタで制作された、このグリーンマップが持つ新鮮な視点は、すぐに住民や観光客の目をグリーンなライフスタイルや地



域の自然・文化遺産などに向けることとなり、挑戦すべき、また進めなければならない方向性を人々に示したのです。その後、独立して発行されたジャカルタグリーンマップ第2版は2002年に、ソングライター、バティック職人、建国の父の家、文化人の住居などを掲載した第3版メンテンググリーンマップは2003年に発行されました。リーダー、マルコはその後インドネシアのグリーンマップづくりの要として、活動することになりました。



Borobudur

ボロスドゥール マンダラ・グリーンマップ

インドネシアのグリーンマップメーカーの特徴は、グループ制作の際にNGOに属さない人や学生など多数が参加し、非常に穏やかなつながりを持っていること

グリーンマップインドネシアのメンバー達



にあります。又マップを制作する際には各々の都市の問題点が浮き彫りになります。ジャワ島中部のケドゥ盆地にある世界遺産ボロブドール遺跡は、ジョグジャカルタの北45キロ程の所に位置し、8世紀の終わり頃から建設された世界最大のもので、世界的にも大変有名な歴史遺産です。地形的には、分水嶺に当たる地域にあたり、三方を山に囲まれ、多くの川が合流し、再び分岐する地域となっています。寺院を囲む公園の外側には、伝統的な村々が点在しており、人口のほとんどが農業に従事していますが、失業者もかなり多いのです。失業者は旅行客相手に、土産物の販売やツアーガイドを行うことでなんとか生計を立てています。観光業の発展は地元住民の利益に繋がりますが、同時に伝統的な生活を壊し、無謀な開発やゴミが増えるなどの環境問題も抱えています。「ボロブドール・マンダラ・グリーンマップ」は、ボロブドールが単に寺院だけではなく、その周囲に暮らす人達のコミュニティを含めたものである事を主張するために制作されました。この地域の有形、無形の資産に対して多様性を表現し、観光名所であり歴史遺産であると同時に、暮らしている人々の生活とのハーモニーを考えなければならないということをリーダーのエラント・ウィジョヨノは表現したかったと言います。このプロジェクトは、村の有力者の目を引き、開発プログラムの一部として取り入れられました。



Peta Hijau Kenangan Tsunami BANDA ACEH BANDA ACEH Tsunami Memorial Green Map

Keterangan Aikon

- | | | |
|-------------------------|------------------------------------|------------------------|
| Tempat Beribadat | Nyaman Berjalan | Penyedia Peta Hijau |
| Bangunan Penting | Parkir Sepeda Aman | Panorama |
| Sasana Seni | Tempat Pambuangan Limbah | Panorama Suya Terbenam |
| Tanaman Khusus | Bahaya Laku Lintas | Bangunan Racun Kimiawi |
| Taman Tepi Sungai/Air | Taman/Kawasan Wisata | Daar Ulang |
| Ruang Terbuka | Pemukiman | Stasiun Bahan Bakar |
| Sepeda | Taman Komunitas | Pojok Photos |
| Kawasan Pejalan Kaki | Perhentian Besar Transportasi Umum | Pasar lokal |
| Palantar Perahu | Sumber Air Minum | Sekolah |
| Sumber Pencemaran Udara | Isot | |
| Tempat Budaya | Pembangkit Energi | |
| Lahan Cemar Tanah | Habitat Laut | |
| Tempat Pambuangan Akhir | | |
| Beribadat Sejarah | | |
| Kedai Kopi Aceh | | |
| Unsur air | | |

バンダ・アチェ・メモリアルグリーンマップ (2005年)



ポロブドゥール・マンダラ・グリーンマップ (2005年)

Banda Aceh

バンダ・アチェ メモリアルグリーンマップ

2004年12月26日、インドネシア一帯を大津波が襲いました。津波で大被害を受けたアチェの復興計画にグリーンマップを利用しようと考えたのです。チームがUrban Poor Consortium（都市の貧困対策連合）というNGO内に編成され、リーダーのマルコとコーディネーター、シルビア・アグスティナは、人々に失った場所を心に留め、未来を描くためにメモリアルグリーンマップの制作をスタートさせました。同年愛知万博で「現代編」と「歴史編」という二つの時間的位相を持つ「広島エコピースマップ」の考え方に触発されたのです。津波前と津波後の状態を住民と一緒に比較検討することで、復興のコンセプトを住民主体で作りあげたいと考えました。24の村について以

前の町がどうであったかを聞き取り、どんな歴史がその場所にあったのかを記録して、それに基づいた村の再建を考えました。25人ほどのスタッフは建築家やエンジニアから成るテクニカルチームやソーシャルワーカー、農業の専門家で構成されました。

被害がひどかった場所では15%から20%の人しか助かっておらず、家族の構成員数が平均4人だったのが1.2人になり、ほとんど全部の家庭が一人暮らしになってしまいました。ひとつのグリーンマップは、場所の記憶を想起させるために作られました。派生したアイデアの中には、津波によって流れ着いた400軒以上の窓やドア枠に張り付いた木材をアート作品にするというものもあり、実現しました。これらの木はこの地方では最も良いオークなどの堅い木で、古い家に以前使われていたものです。チームは、3330軒の家を始め、2つのモスク、23のコミュニティセンター、2つの小学校、町の内外の全ての道路、いくつかの堤防等も作りました。国連ハビタの調査によ

ると、チームが建てた家は、技術的な質、住手の満足度においても一番高いものでした。「しかし復興の最も重要な要因は、サバイバーの強い意志と次第に回復していく社会資本が自分たちのものだと感じられることである」とマルコは言います。津波から一年後の2005年12月26日にバンダ・アチェグリーンマップは発行され、プロジェクトは2008年ドバイ国際ベストプラクティス賞を授与されました。

津波災害直後の村の様子 (2004年)



..... www.GreenMap.or.id



紹介した3つのマップの他にも、生物多様性、グリーンな暮らし方の提案、豊かな文化遺産の保護、災害復興・防止等にグリーンマップは利用されています。2001年から始まったインドネシアのグリーンマップ作りは、国中に広がり、ハブ組織「グリーンマップ・インドネシア」は、様々なマップ、ウェブサイト、その他関係する資料を発行してきました。ハイテックな技術に習熟した若いスタッフも多いのでウェブサイトも充実し、ネット上のマップも充実してきました。2009年7月17～19日には、ポロブドゥールでナショナル・ミーティングも開かれる予定です。

new map

01

山崎川グリーンマップ

名古屋市



2008年9月29日発行
 企画・制作：山崎川グリーンマップ
 問い合わせ：大矢美紀
 ohya@sc.srrarc.net.ne.jp

山崎川はサッカーで有名な瑞穂グラウンド横を流れる川で、桜の名所として全国的に有名で、地元の人が大切にしています。ただ、橋からおりて川の中に入ってみるとたいへんなことが起こっていることに気がきます。人が入れた鯉が、大きく育ち川の小さな生き物を食べ尽くすようになりました。家庭で飼えなくなったペットの放流も問題で、とくに大きくなったミドリガメは在来のカメの住処を奪ってしまいました。

今回のマップは今までおこなった生き物調べをまとめたものです。同時に近所のお年寄りから昔どんな生き物がいて、何が消えていったかも聞き取りし、これから守るべきものを浮き彫りにしました。生き物という視点から、名古屋市緑政土木局への今後の河川工事のあり方へも提言をすることができました。

04

北山グリーンマップ 京都市

京都の北山通りは若者をターゲットにした商業施設や飲食店が多くあります。しかしそれが単なる市街地に位置するのではなく、非常に緑豊かな洛北の地にあり、植物園やコンサートホール、そしていくつもの大学があって、文化的にも大変充実した地域であることは、注目に値します。そこで今回この地域のグリーンマップを作成することにより、ここを訪れる人々の環境への意識を高めていこうとするものです。裏面はお店紹介でタウン情報としても使えるようにしました。



2008年7月発行
 企画・制作：地域通貨みずほの会+地域の未来
 志援センター
 問い合わせ：北村政智
 kitamura@c-mirai.org

02

心がふれあう雁道マップ 名古屋市

名古屋市瑞穂区の人権尊重のまちづくり事業。マップの舞台となった雁道エリアは瑞穂区でも1、2番の高齢化のエリア。ここには昭和の雰囲気が残る市場と2つの商店街があります。少しでもお年を召した方がまちに出る、歩きやすくなるように、買い物をしなくても休憩やトイレを貸してもらえるお店や少量でも配達してくれるお店などを学生や地域の皆さんと集めました。このマップがきっかけとなって店の人とお年寄りの笑顔の輪が広がっていくことを願って制作しました。

03

犬山グリーンマップ

愛知県

2009年3月30日発行
 企画・制作：グリーンマップ犬山・
 ケナフネットワーク
 問い合わせ：若杉廣巳
 fwnh2388@mb.infoweb.ne.jp



愛知県最北の都市犬山市は「城下町と鶉飼」の観光都市です。マップづくりには毎月第三土曜日を調査日と決め市民参加PRのため各公共施設にポスター、募集チラシを掲示配布して、市内を3年間回りマップを作りました。全環境フレームを対象としてまた地域交流も取り入れ、各街に住む名人、変人とコース途中で話を聞いたり説明を受け交流をしながら、自然環境、生活環境、史跡、歴史環境、福祉環境、交通、道環境、ゴミ環境、景観環境などを収録しました。マップは印刷されていますが、環境は日々変化して行きます 昨日歩いた道が今日消えています。今後も環境を見ながら続けていきます。

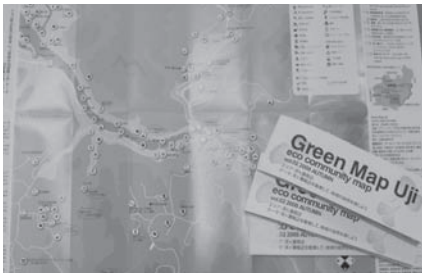


2008年10月1日発行
 企画・制作：京都工芸繊維大学中野
 デザイン研究室
 問い合わせ：TSP、阪本 075-706-6270

05

Green Map Uji vol. 2 宇治市

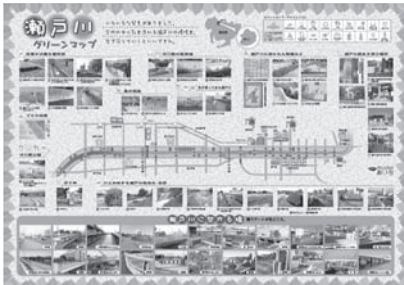
京都府宇治市を再発見したいと思い発足した「グリーンマップ宇治」。地図を通して会話や交流が生まれる「エコ・コミュニティ」をテーマに、現在、京都文教大学の学生7名、社会人3名の計10名で活動中です。昨年春に完成した第1号では、宇治川を中心に源氏物語・宇治十帖の古跡を巡り、周囲の環境について考えました。今回のエリアは宇治川をさらに遡った緑あふれる天ヶ瀬周辺。調査が秋だったこともあり、山歩きをする人のために紅葉が美しいポイントや、ハイキングコースも織り交ぜました。裏面の「News Letter」では、調査エリアを4つに分け、メンバーが実際に歩いて感じたことや地元の方との交流・伺ったお話などを記事にまとめ、紹介しています。



2008年11月29日発行
企画・制作：グリーンマップ宇治
問い合わせ：京都文教大学フィールドリサーチオフィス
fro@po.kbu.ac.jp

07

瀬戸川グリーンマップ 愛知県



2009年3月発行
企画・制作：グリーンマップせと
問い合わせ：伊藤菊男 hj5tom32@qc.commuva.jp

09

金沢八景グリーンマップ

横浜市

横浜市立大学の学生が作る「金沢 HAKKEN」というタウン誌の最後に、大学付近のグリーンマップを制作し、掲載しました。このタウン誌は、お薦めデートコース、キャンパス近くのお店やレストランの紹介、地域団体の紹介、大学の部活紹介などを載せています。マップには、駐輪場、自然観察、リユースサイト、シーサイドの夕日がきれいな場所などを収録しました。

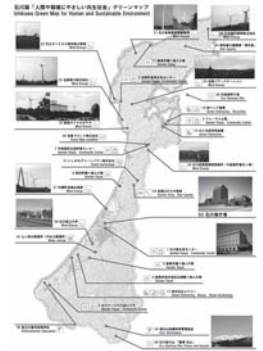


2008年10月31日発行
企画・制作：横浜市立大学環境サークル
STEPUP1+地域住民の皆さん
問い合わせ：川浪寛子 hakken@yokohama-cu.ac.jp

06

「人間や環境にやさしい共生社会」 グリーンマップ 石川版 石川県

本グリーンマップは環境問題、男女共同参画社会形成促進の両者を視野に入れて作成しました。石川県全域を対象とし、環境では新エネルギー施設を中心に、人の健康に資する場所や店舗、活動、サウンドスケープ、ランドスケープなどの情報が盛り込まれています。男女共同参画では、拠点施設や取り組みで高い評価を得ている企業などを掲載。今回のマップは、当会の第3版となりウェブ上で公開され、環境と男女共同参画の両分野における石川県のベースマップとして、データの追加・更新が容易に行えます。本グリーンマップが、男女の協力により、自分たちの生活する地域で人間や環境にやさしい対応という、草の根の活動に活用されることを期待します。



www.geocities.jp/oleijp
2009年3月14日ウェブ公開
企画・制作：石川県くらしと
環境を考える会
問い合わせ：千原かや乃
k-chiha@jaist.ac.jp

08

エコ商店街探検隊 2008

みんなでみつけたまちのエコ

豊田市



2008年11月22日発行
企画・制作：とよたエコ商店街探検隊実行委員会
問い合わせ：豊田市環境学習施設 eco-T (エコット)
坂本竜児 info@momobank.net

豊田市の商店街は、環境に配慮したお店になろうと「エコ商店街宣言」を行いました。キャッチフレーズだけではなく、お客さんも店主も一緒になって、エコ商店街の取り組みを進めるために、環境にやさしいお店や商品、歩いて楽しい場所を探してマップを作りました。

マップ作りには、家族、学生、eco-Tのインタープリターなど、のべ60名が参加。普段は歩くことがない中心市街地に親近感が湧ききっかけになりました。グリーンマップを使った中心市街地の活性化は、希薄になった人と人とのつながりやまちのあたたかみを取り戻すきっかけにもなりそうです。マップの裏面はクーポン券になっていて、まち歩きも買い物も楽しめます。

Celebrate

500 を超えた参加都市



2008年10月、Grupo Aves del Peruの登録で、世界のグリーンマップ参加者はついに500を超えました。このグループは、グリーンマップで、クスコの鳥類に人々の関心を引き寄せようとしています。2008年は、世界中で過去最高の72の新しい登録がありました。10月には、NYUのツーリズムプログラム、Rochester NY、Gandhinagar（インド）、Bistrita & Livezile（ルーマニア）、Halle & Neustadt（ドイツ）、Dunipace Green（スコットランド）、サンフランシスコ、セントトーマス、ヴァージン島などの参加登録がありました。

事務局あれこれ日誌

2008年4月12日

朝日新聞中ノ島キッズグリーンマップワークショップ開催

2008年5月10日

グリーンマップジャパン総会

2008年8月23日～31日

北九州でグリーンマップワークショップ開催

8/23-24 及び 8/30-31（の2週間にわたる週末、小倉区のリバーウォーク北九州にて親子グリーンマップ体験ワークショップ開催開催されました。参加者は小倉城や商店街を回り地図を作りました。

2008年12月6日～12日

JD「こだわっ展」に出展

関西を中心に活動しているIDデザイナー、グラフィックデザイナー、アーティストなどで構成されるデザイン団体「日本デザイン・ソサエティ」の提案展「こだわっ展」（会場-NHK大阪放送局1階アトリウム）にグリーンマップが一週間展示されました。

2008年12月19日

グリーンマップあいちネットワーク会議

愛知県のグリーンマップメーカーの交流会を中部リサイクル運動市民の会の事務所で行いました。

2009年1月11日

グリーンマップ宇治発表報告会

「京都の自然から見る温暖化と世界の動き」講演会とグリーンマップ宇治第2版の発表会開催。

2008wcomers, Welcome!

2008年度（2008.4～2009.3）参加登録した所です。*完成

地域・グループなど

麻布大学 地域環境研究室
京都工芸繊維大学

テーマなど

大学のキャンパス内
北山通りの自然と街*



Open Green Map 開発スタッフ
(Green Map System 本部 NY)

事務局からのお願ひ

1. 年会費納入お願ひの通知は本部よりメールで自動的に送られてきます。会費は直接本部に支払うことができますが、以下の口座に円で支払うこともできます。日本で支払われた会費の3分の1は、グリーンマップジャパンにサポート金として供与されます。

振込先：郵便振替口座
00920-4-278590

加入者名：特定非営利活動法人
グリーンマップジャパン

2. マップが完成しましたら、30部を事務局にお送り下さい。また、ホームページに掲載しますので、説明文と画像をご用意下さい。又、本部のウェブサイトにも説明や画像を入力して下さい。プロジェクトの進捗状況なども世界に向けて発信して下さい。

3. グリーンマップジャパンから直接、日本語の資料を取り寄せたり、購入することもできます。現在、以下のような資料がご利用になれます。

グリーンマップ・アクティビティガイド	500円
グリーンマップ紹介パンフレット	無料
グリーンマップ調査シート 小中学生用	無料
テーマ別グリーンマップガイド	800円
グリーンマップ・インパクト	800円

編集後記

ついに中国の温室効果ガス総排出量が昨年 USA を越えました。2009年12月に開催される「地球温暖化防止国際会議-COP15」は、インド、中国が削減国に入るかどうかの重要な会議です。日本を始めとする先進諸国のやる気を見せなくては、これらの国々の参加は見込めません。日本政府は、この点大変消極的な数字しか出しておらず、世界の国々は世界の流れの足を引っ張るのではと懸念しているとか。このままでは嫌われ者になりそう。困った！（よ）

「Green Map Harmony」第4号

発行日：2009年8月15日

企画・発行：特定非営利活動法人グリーンマップジャパン

編集人：右衛門佐美佐子

デザイン：田中裕子・石川りさ

GREEN
MAP
JAPAN

■ グリーンマップジャパン 事務局
〒606-8225 京都市左京区田中門前町90
tel: 075-712-8834 fax: 075-702-6223
e-mail: info@greenmap.jp
URL: greenmap.jp



グリーンマップは Green Map System ™ の商標であり、アイコン及びロゴには著作権があります。禁無断転載・複製。
Icons © Green Map System, Inc. 2008. All rights reserved.
ニューヨーク本部 URL: greenmap.org